

高松塚古墳について —考古学から—

和田 晴吾

はじめに

・墳丘墓の一般的な趨勢

農耕社会が発展し、国家的なまとまりを形成しはじめる頃から造りだされ、大型化していくが、国家が成熟し、官僚機構が整備され法による統治が実現してくる段階には衰退・消滅する（一部の特定個人墓は残る）。

・高松塚古墳（7世紀末～8世紀初頭） 律令国家完成期の最後の有力古墳の一つ。

天武（687年）持統（703年）野口王墓古墳（）内は埋葬年）

（八角墳、横穴式石室・天武一布張り・木蓋、持統一火葬・臓骨器）

文武（707年）中尾山古墳（八角墳、横穴式石槨の一種、火葬・臓骨器）

元明（721年）奈良市佐保丘陵「奈保山東陵」火葬地を墓所にしたい。

函石「元明天皇陵碑」の可能性高い。本来の出土地不詳。

1. 高松塚古墳の概要

	[高松塚古墳]	[キトラ古墳]
・立地	藤原京の南の丘陵、ほぼ京の中軸線上、丘陵の南側 (他に天武・持統合葬陵・中尾山古墳・伝文武陵・キトラ古墳など)	
・墳丘	2段築成の円墳・23 m	2段築成の円墳・約 14 m
・埋葬施設	横穴式石槨 (組合式)	横穴式石槨 (組合式)
内法	266 × 104 × 113cm	240 × 104 × 114cm
石材	二上山白石	二上山白石
・棺	漆塗組合式木棺	漆塗組合式木棺
・人骨	1 体分 (熟年男性)	1 体分 (熟年男性)
・副葬品	海獣葡萄鏡 1	—
(盗掘)	銀装大刀 ガラス玉・コハク玉ほか	鉄製大刀 ガラス玉・コハク玉ほか
・壁画	星宿、日月・四神・人物	天文図 (日月)・四神・十二支像
・須恵器	墳丘下層の旧地表—飛鳥ⅡからⅣ (7c後半) を中心としⅤまで。 墳丘版築最下層・墓道—飛鳥Ⅴ (7c末～8c初頭) を下限とする。	

2. 墳丘

- ・土饅頭形 (版築約 130 層・層間にムシロ)。下段の直径 23.0 m、上段の直径 17.7 m。
1 尺 = 0.354cm の律令大尺 (藤原京の設計尺) の 65 尺・50 尺にあたるという。
- ・高麗尺は 6 世紀中葉から畿内系横穴式石室の設計尺 (度量衡統一の方向性)。
7 世紀には唐尺 = 1 尺約 0.30 m も一岩屋山型横穴式石室など。
- ・被葬者は皇族か、有力氏族の首長か 立地から見れば、天皇に極めて近い。
大王墳は段ノ塚古墳 (伝舒明陵、642 年葬) から八角墳。

3. 棺と横口式石槨

- ・「石室」 考古学では「横口式石槨」と呼ぶ人が多い。
 - 棺：直接遺体を納め保護する容器。またはそれに準ずるもの。
 - 槨：棺を収納し保護する施設。またはそれに準ずるもの。内部空間は基本的に棺によって規定されるが、時には副葬品置き場なども含まれる。
 - 室：棺とは無関係に独自の内部空間をもつ施設（玄室）。通常、外部につながる通路（羨道）をもつ。内部空間は棺の置き場、副葬品の置き場、儀礼の場、通路の延長部分など、複数の機能をもつ空間からなり、基本的には空間利用の仕方が石室の内部形態を決定する。
 - 墳：遺体や棺槨室を納めるために、あるいはこれを築くために地中に掘られた穴。
- ・ 槨 — 縦穴系 縦穴式石槨、粘土槨など — 「据えつける棺」埋葬と構築が一体的に。
横穴系 横口式石槨 — 「持ちこぼ棺」
- ・ 「持ちこぼ棺」は7世紀に出現。横口式石槨用の棺として伝わった可能性が高い。
 - 漆棺（夾紵棺・漆塗木棺・漆塗籠棺など）、鐵座金具つき組合式木棺など。
 - ・ 横口式石槨の高松塚型は漆塗木棺、アカハゲ型は漆塗籠棺。
- ・ 横口式石槨
 - ・ 7世紀に伝来。
 - ・ 単葬用の棺の保護施設
 - 横穴式石室は追葬による複葬。しかし、7世紀には小型化・単葬化。
 - ・ 初期には渡来人が中心となって営まれた可能性が高い。

系統差（時期差は1～3式に）

- A系統：槨部の前に前室がつき、その前に羨道が付く形にはじまるもの。
 - 花山西型（板石組・榛原石）
 - アカハゲ型（切石組・花崗岩、敷石に榛原石）
 - B系統：両袖型横穴式石室の奥壁に槨部がつく形にはじまるもの。
 - 雁多尾畑型（切石や自然石組・花崗岩）
 - 観音寺型（切石や自然石組・寺山石英安山岩ほか）
 - 鬼ノ俎型（剝拔式・花崗岩）
 - C系統：横口をつけた剝拔式家形石棺を槨部とし、それを石、瓦、埴など「室」状に囲い、その前に羨道がつく形にはじまるもの。
 - お亀石型（剝拔式・二上山白石）
 - 仏陀寺型（一石剝拔式・二上山白石）
 - （牽牛子塚型（剝拔式・二上山白石））
 - D系統：組合式の槨部の前に短い羨道がつく形にはじまるもの。
 - 塚穴山型（切石組合式・二上山白石）
 - 高松塚型（切石組合式・二上山白石）
- ・ 「型」は、基本的に形態と利用石材とが対応する — 棺も対応の可能性。
 - ・ 分布には、地域性があるもの（花山西・観音塚・アカハゲ型など）と、ないもの。
 - ・ 「型」の背景 — 同一族によるか、同一身分によるか — 被葬者像の解明に重要。
 - ・ 高松塚古墳の埋葬施設や棺の型式は、古墳時代とは大きく異なっている。

4. 槨・室と壁画

- ・中国・高句麗――壁画は塼室墓・土洞墓・横穴式石室など「室」に描かれるのが基本。
- ・「槨」の時代 「魂気は天に帰し、形魄は地に帰す」(『礼記』郊特性篇)。
形魄(遺体)は槨のなかで永遠の眠りにつく(遺体が土に帰るとともに消滅とも)。
- ・前漢から塼室墓など「室」が出現。
「室」では、死者は室内で生前と同じような生活を送ると観念されるようになった。
その壁面に壁画が描かれる。
- ・「室」の一部に、密封された棺をもたない群(「開かれた棺」)がある。
――北朝・高句麗など。
石棺床、「家形石槨」(扉あり・棺か)、屍床系統など。
- ・唐代のものはこの系譜上にあると考えられる(塼室墓の構造と壁画)。

- ・日本列島では九州系統の石室――屍床や石屋形――「開かれた棺」――「開かれた石室」
穹窿状の天上と家の例。
 - ・石室空間は死者の空間――死者は石室内で生前と同じような生活を送る。
 - ・伊邪那美命の黄泉国訪問譚の世界。
 - ・装飾古墳が生まれてくる。
- ・畿内系の石室――「閉ざされた棺」――「閉ざされた石室」
 - ・前・中期古墳の縦穴式石槨の伝統が強く残る――遺体の密封が基本。
 - ・そこには、死者が生活するという観念はない。畿内系石室に装飾古墳なし。
- ・高松塚古墳――横口式石槨――本来は遺体の密封が基本――畿内では受け入れやすい。
 - ・棺も「閉ざされた棺」
大阪府御嶺山古墳の漆塗木棺に海老錠――高松塚の六花形座金具も。
(ただし、大阪府阿武山古墳の夾紵棺には錠前がついていない。)
 - ・横口式石槨の壁面に壁画を描くのは、本来的ではないと思われる。
中国などの墓室を意識し、狭い空間に星宿、四神、日月、人物群像など必要最小限の要素を配列した。

おわりに

奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 1979『飛鳥時代の古墳』

奈良文化財研究所飛鳥資料館 2005『飛鳥の奥津城』

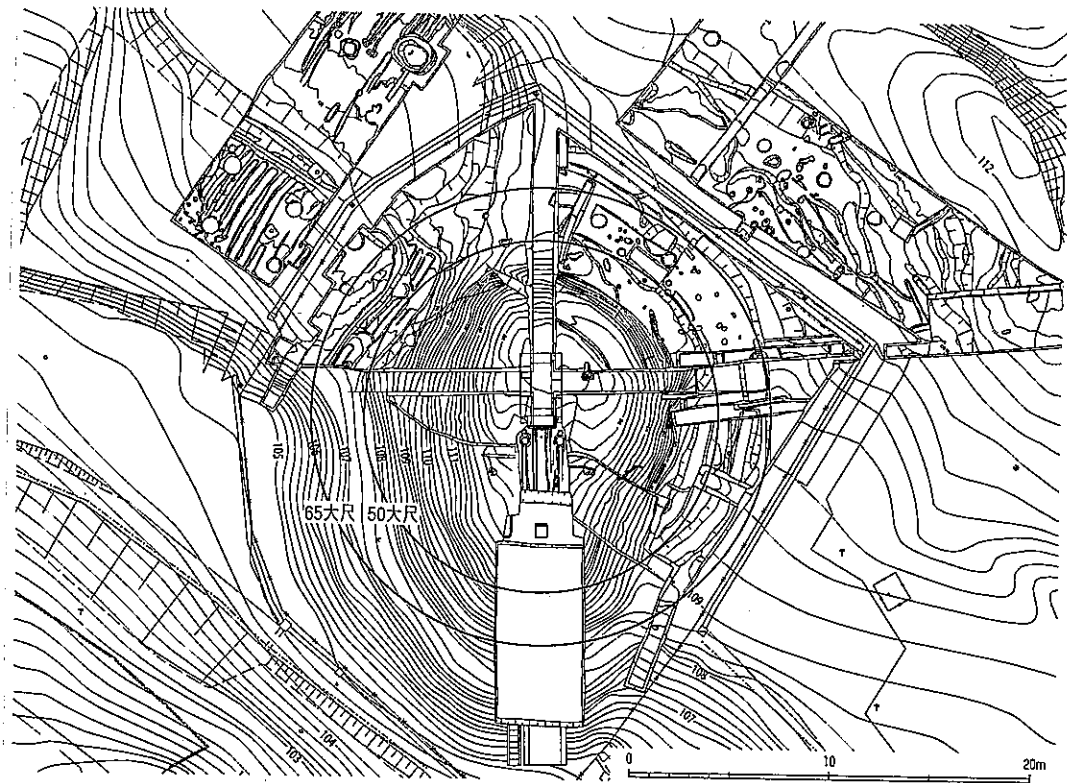
奈良文化財研究所 2006『高松塚古墳の調査』

水野正好編 1993『「天皇陵」総覧』(『歴史読本特別増刊』事典シリーズ) 新人物往来社

松村恵司他 2009「高松塚古墳の石室解体に伴う発掘調査」『日本考古学』第27号

和田晴吾 1989「畿内・横口式石槨の諸類型」『立命館史学』第10号

(図は各報告書より)



高松塚古墳の墳丘規格 1:300

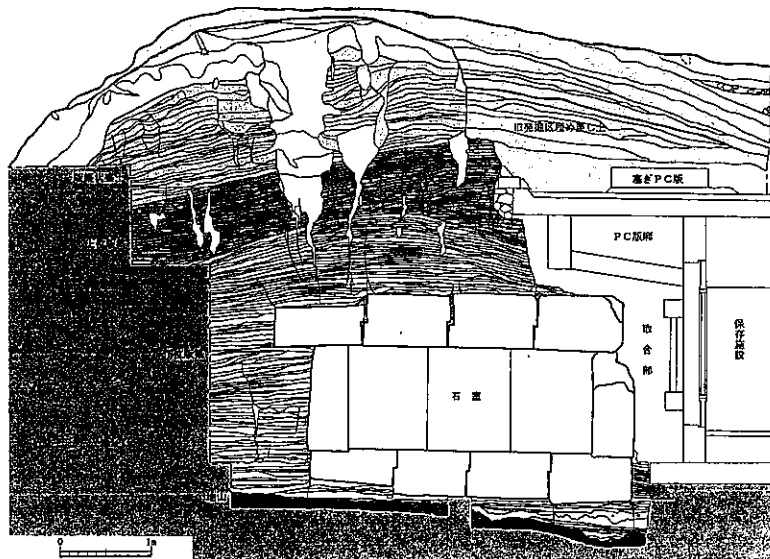


図3 南北軸土層断面図 1:50

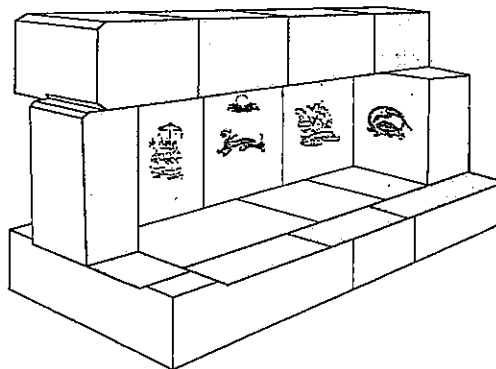


図1 奈良県高松塚古墳の墳丘と横口式石槨

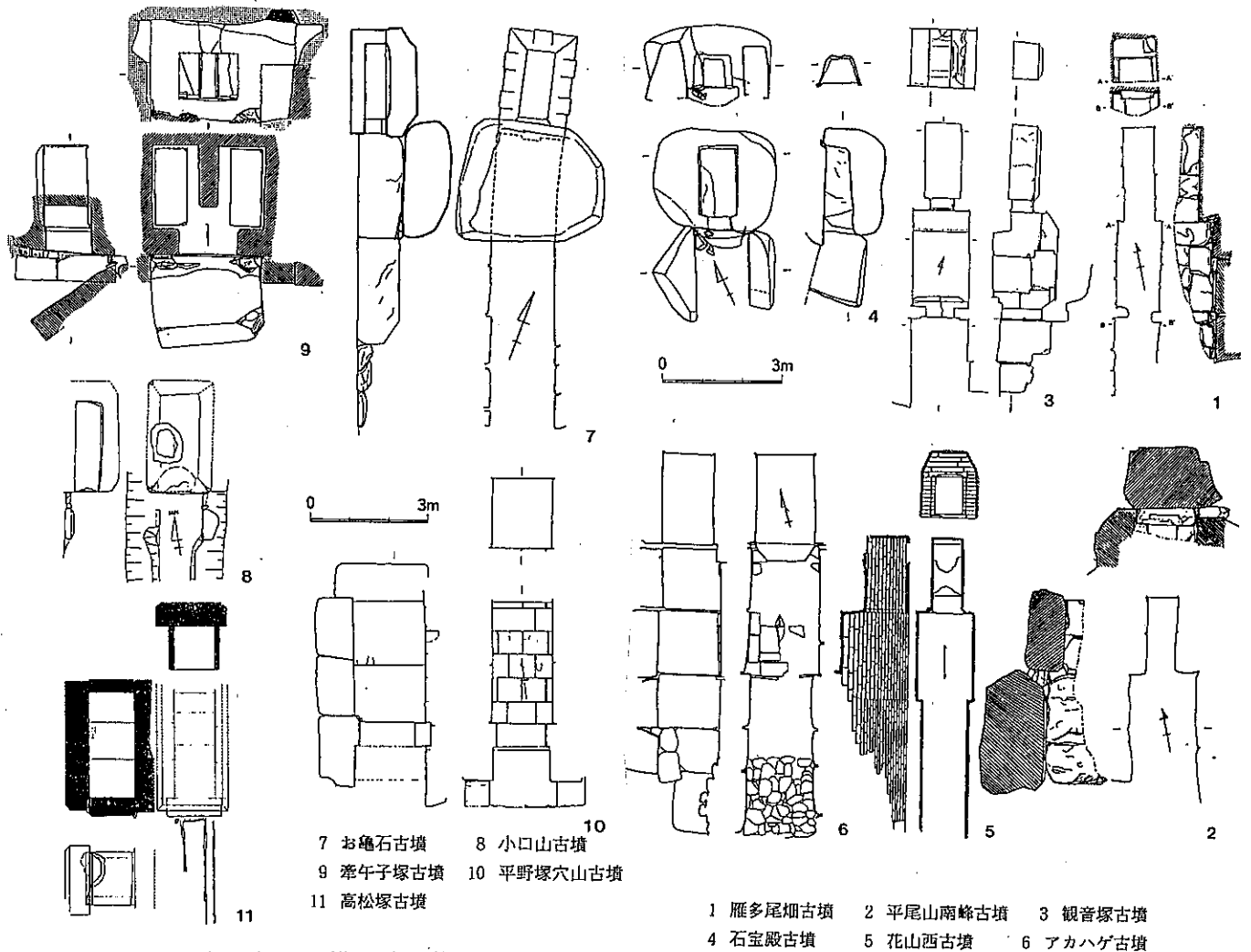
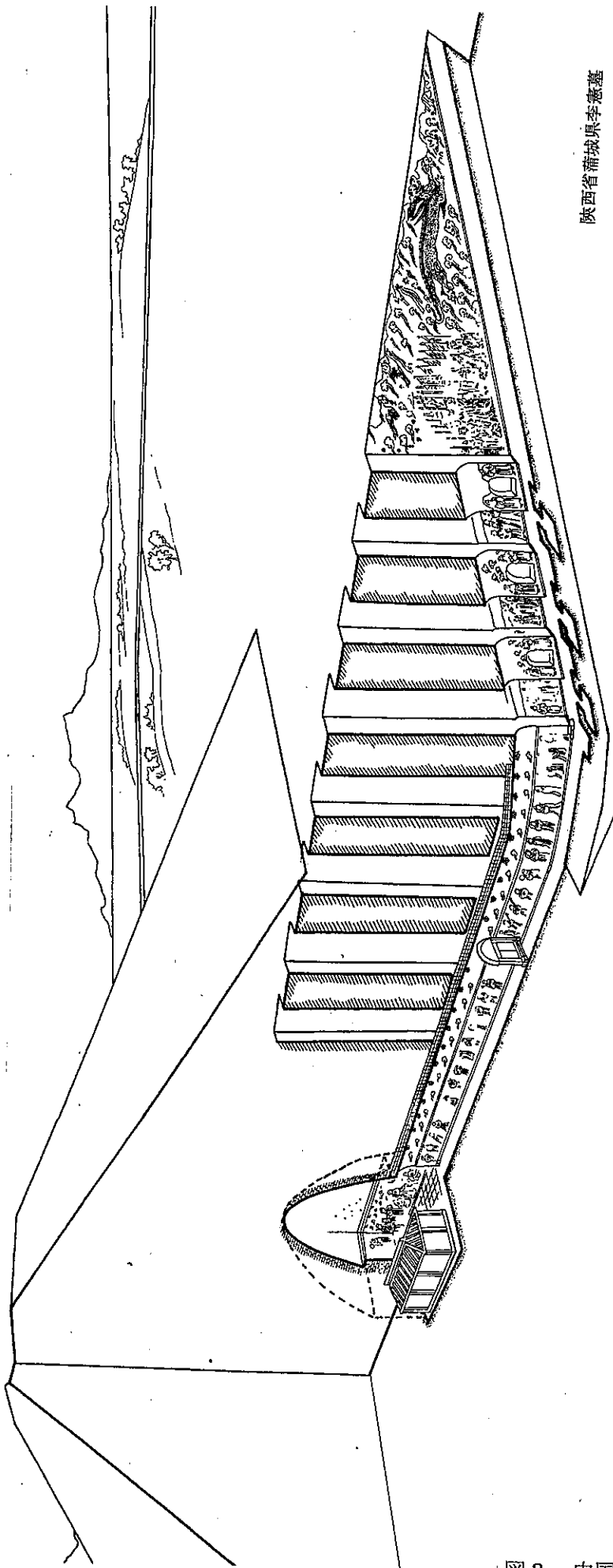


図2 畿内の主要な横口式石槨

系統	B 系統	A 系統		C 系統	D 系統
型	花山西型 アカハゲ型	雁多尾畑型	観音塚型	お亀石型 仏陀寺型 牽午子塚型	塚穴山型 高松塚型
構造		鬼ノ廻型			
一式	花山西 アカハゲ 嶽山	雁多尾畑	観音塚 観音塚西 春日 鉢伏山西 オーコー 8	お亀石 松井塚 小口山	
二式	塚廻 竜王山 89	平尾山南 巨勢山 323 白木	平尾山西 鬼ノ廻 石宝殿	(仏陀寺) 牽午子塚	塚穴山
三式		御坊山 3		徳楽山	ヒチ池西 平野 3 兵家
					石のカラト マルコ山 高松塚

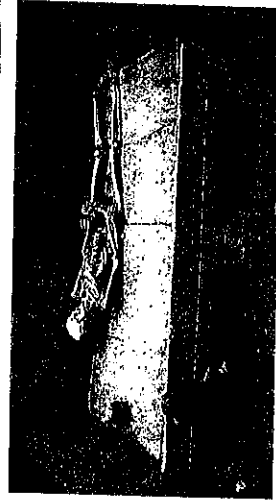
表1 畿内の横口式石槨の系統と構造型式

(ヒチ池西はヒチンジョ池西古墳をさす。)

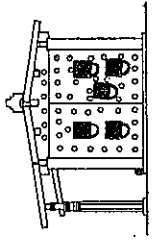
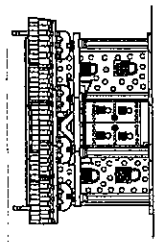
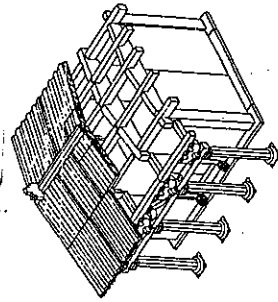


陕西省蒲城原李憲墓

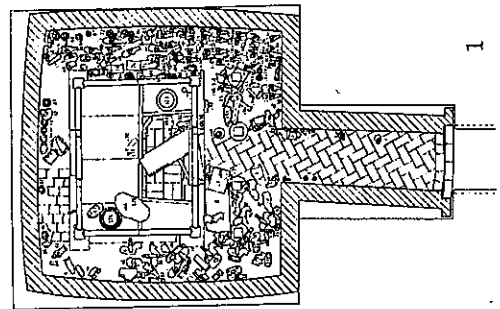
大同南郊M112号墓



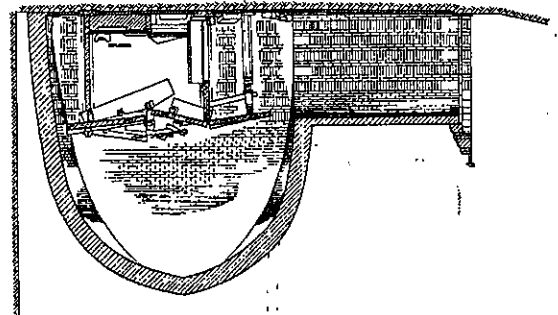
西安市康業墓



0 3 m



1



大同市宋紹祖墓の磚室と「石槨」

图3 中国の磚室墓・土洞墓と「家形石槨」・石棺床

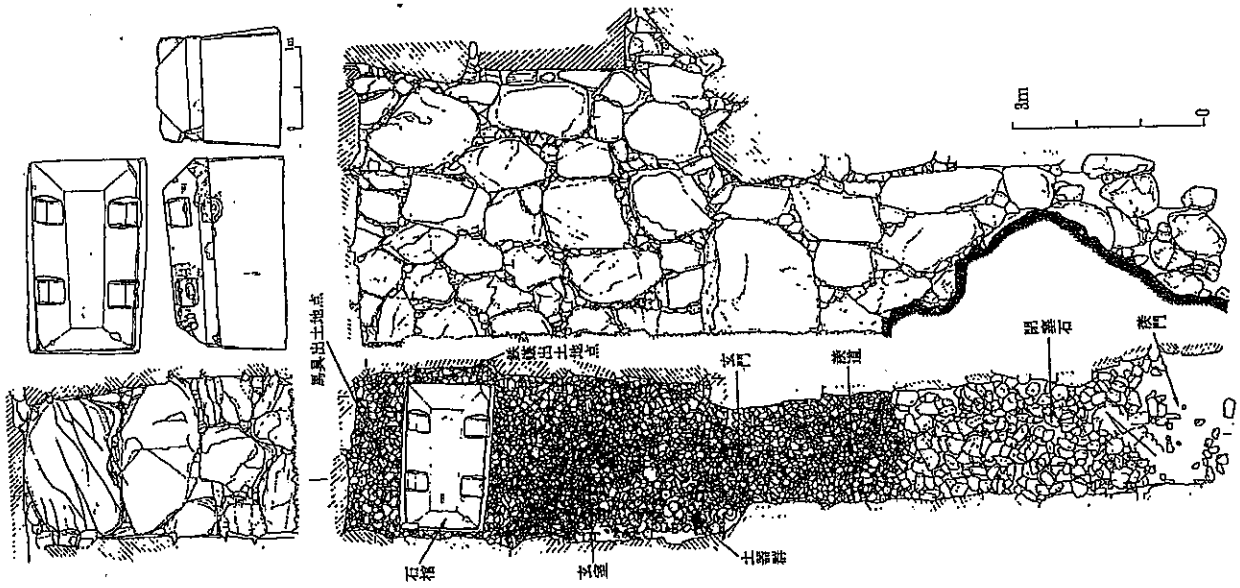


図4 畿内系横穴式石室と九州系横穴式石室

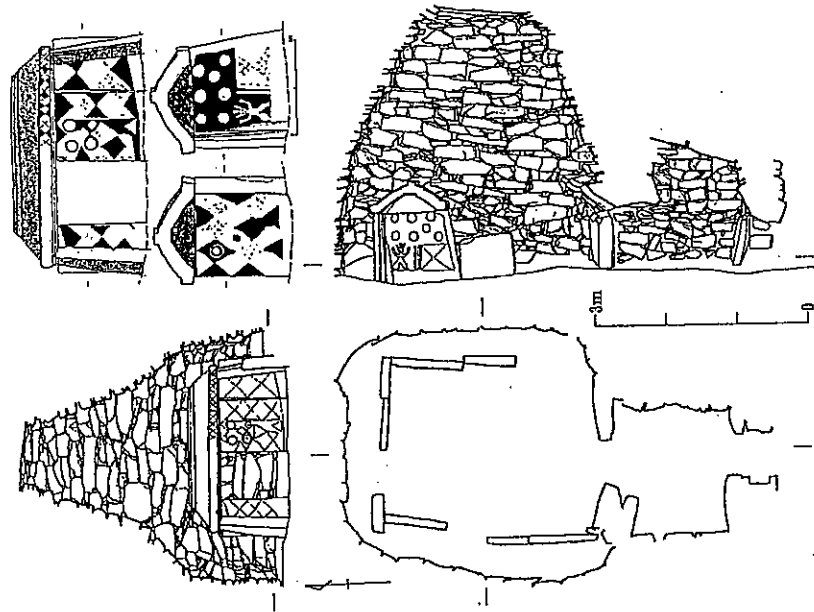


図10 熊本県チブサン古墳の横穴式石室と
横口式家形石棺（石屋形）[高木 1984]